

反復嚢胞穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法が著効したと考えられる両側チョコレート嚢胞を合併した反復 ART 不成功例

井谷 裕紀<sup>1</sup>, 辻 勲<sup>1</sup>, 樽井 千香子<sup>1</sup>, 水野 里志<sup>1</sup>, 重田 護<sup>1</sup>, 福田 愛作<sup>1</sup>, 森本 義晴<sup>2</sup>

1. IVF 大阪クリニック
2. HORAC グランフロント大阪クリニック

40 歳。未妊。他医でこれまでに低刺激法による採卵を 8 回、新鮮ならびに凍結融解胚移植を 6 回施行するも妊娠が成立しなかったため、当院での治療を希望され初診となった。初診時の超音波検査では、両側チョコレート嚢胞(右 40mm、左 20mm)を認めた。子宮内膜症による反復 ART 不成功と診断し、ART 前にチョコレート嚢胞反復穿刺吸引術とジェノゲスト併用療法を行う方針とした。ジェノゲストは、月経周期 6 日目から開始し 1 日 2mg を 3 ヶ月間投与した。嚢胞穿刺吸引術は経膈超音波ガイド下で実施し、穿刺時期はジェノゲスト投与開始直後、1.5 ヶ月後、3 ヶ月後の計 3 回実施した。ジェノゲスト投与終了後、チョコレート嚢胞の大きさは、右が 17mm, 左が 12mm に縮小していた。月経発来後、レトロゾールによる卵巣刺激を行った。採卵数は 3 個、うち成熟卵数は 2 個であった。一般体外受精により、胚盤胞(ガードナー分類 4BC)を 1 個獲得した。新鮮単一胚盤胞移植を行い、妊娠が成立。妊娠継続中である。現在、当院では本治療の有効性について前方視的検討を施行中である。本発表では、文献的考察を加えて報告する。